

参加費
無料

誰ひとり取り残さないインクルーシブ防災を目指して

福祉防災 シンポジウム 2024

日時

2024年6月9日(日)
13:00~15:30

場所

東京都慰霊堂

墨田区横網町公園内 (JR両国10分、都営大江戸線2分)

開催場所になる「東京慰霊堂」は大正12年(1923年)9月1日に発生した、関東大震災による遭難者(約58,000人)の御遺骨を納めるための霊堂として、東京市内(現在の23区の中心部)で最も被害の大きかった被服廠跡に、震災7年後の昭和5年(1930年)に完成しました。この歴史を持つ場所で、今回、「インクルーシブ防災を目指して」防災委員会のシンポジウムを開催致します。



中林 一樹

東京都立大学名誉教授・首都防災ウィーク実行委員長・工学博士
1976年10月29日に、山形県の酒田大火で火災鎮圧の24時間後の酒田を視察したことが都市の防災と災害復興の研究を始めるきっかけ。東京都の都市防災計画、阪神淡路大震災以降は都や区市と連携して「震災復興ランドデザイン」や「震災復興マニュアル」の策定支援、「都市復興訓練」や「復興まちづくり訓練」の手法開発や実践指導など「事前復興」の実践的研究を進めている。同時に「防災都市づくり推進計画」の策定とともに、東日本大震災被災地や伊豆大島土砂災害の復興計画策定委員長なども兼務。東京都火災予防審議会会長、葛飾区・豊島区・台東区・世田谷区・多摩市の都市計画審議会会長、(一社)中越防災安全推進機構理事長、日本災害復興学会元会長、など多数。



立木 茂雄

同志社大学 社会学部 教授
1955年兵庫県生まれ。1978年関西(かんせい)学院大学社会学部卒。同社会学部研究科修士課程修了後、1980年よりカナダ政府給費留学生としてトロント大学大学院に留学。MSW(マスター・オブ・ソーシャルワーク)ならびにPh.D.(ドクター・オブ・フィロソフィ)修得。1986年より関西学院大学社会学部専任講師・助教授・教授を経て2001年4月より現職。専門は福祉防災学・家族研究・市民社会論。とくに大災害からの長期的な生活復興過程の解明や、災害時の要配慮者支援のあり方など、社会現象としての災害に対する防災学を研究。



岡野谷 純

特定非営利活動法人 日本ファーストエイドソサエティ 代表理事
1993年に「救急救護法の啓蒙」を掲げて市民団体を設立、2000年NPO法人に移行。市民・医療職向けに救急救護法や災害支援活動に関する研修・講演を開催しています。災害時には被災地に赴き支援活動(広域避難・乳幼児支援、ボランティア支援など)を実施。近年は中南米諸国において「救命法プログラムの普及」活動を実践しています。



主催
共催

株式会社土屋防災委員会、首都防災ウィーク実行委員会

後援
団体

東京難病団体連絡協議会、福祉防止コミュニティ協会、特定非営利活動法人日本ファーストエイドソサエティ、NPO法人日本障害者協議会、認定非営利団体「DPI日本会議」、一般社団法人日本トイレ協会災害・仮設トイレ研究会、江東5区マイナス地域防災を考える会、北砂アカデミア防災塾、脳損傷・高次脳機能障害サークルエコー、桜東京パイロットクラブ、東京高次脳機能障害協議会

お問い合わせ

株式会社土屋防災委員会

詳しくはこちら ▶▶▶

URL: <https://tcy.co.jp/project/bosai-symposium240609/>



▼参加申込は
こちらから

